



東濃地区の子育て・親育ち通信

家庭教育なう

No.11

2026年2月発行

恵那県事務所振興防災課 家庭教育担当 大島
〒509-7203 恵那市長島町正家後田1067-71

TEL 0573-26-1111(内線208)

FAX 0573-25-7129

MAIL oshima-akihiro@pref.gifu.lg.jp

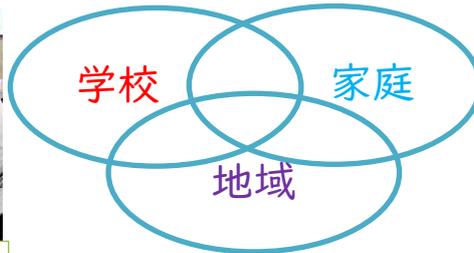
「家庭教育なう」は、恵那県事務所のHPからご覧いただくことができます。QRコード→



令和8年度 家庭教育学級リーダー研修会のご案内



グループ交流の様子(西部 幼保・乳幼児の部)



グループ交流の様子(東部 幼保・乳幼児の部)

令和8年度家庭教育学級リーダー研修会(幼保・乳幼児の部、小中学校の部)について

5月13日(水)東濃東部地区(中津川市、恵那市) 会場:恵那総合庁舎

幼保・乳幼児の部 午前10:00~12:00 小中学校の部 午後2:00~4:00

5月14日(木)東濃西部地区(多治見市、土岐市、瑞浪市) 会場:東濃西部総合庁舎

幼保・乳幼児の部 午前10:00~12:00 小中学校の部 午後2:00~4:00

***研修の申込方法については各市担当部署よりお知らせします。**

令和7年度 この研修に参加された方の感想

「教員と保護者の方が一緒に意見などを聞くことができ、貴重な機会だと思います。」

「今年度どう進めていくか、知恵もなく、案も少ない中、楽しい活動をいくつも知ることができてありがたかったです。」

この研修は年に一回の県の家庭教育学級の運営に関する研修です。これまでの先輩たちの取組の積み重ねもあって、次のような良さがあると感じています。

研修ポイント 3

1 情報収集

岐阜県の家庭教育支援条例、家庭教育支援事業の情報、家庭教育学級運営の実践、現状等がわかります

2 視点の広がり

実践交流の際、他の実践を聞くことで、新たな視点、ちょっとした工夫を取り入れるきっかけになります

3 ネットワークづくり

この研修会は、同じ使命、志をもった仲間が集いますよきネットワークづくりのきっかけになります

○共働きの保護者の方が増える中で...

昨年度も「家庭教育委員長が参加できないので、代理でPTA会長が参加します。」とか「家庭教育委員会はありますが、PTA副会長(研修担当)が参加します。」の声を伺いました。保護者の代表として研修いただいています。保護者の方で「家庭教育支援条例について初めて知った」という方は約8割でした。

○小中学校の部において...

昨年度も多くの小中学校より職員、保護者両方のご参加(約8割)をいただきました。参加者の中には「教頭が会議で参加できないので私(校長)が来ました。」というお話も伺いました。来年度も引き続き、多くの皆様のご参加を期待しています。(中学校参加率100%、小学校参加率97%)

○幼保・乳幼児の部において...

幼稚園の減少にともない参加者も減少傾向にあります。市によっては、多くのこども園、保育園、私立園から職員、保護者の皆さんの参加をいただいています。園の経営と家庭教育は密接なつながりがあります。他市の園などの情報を交流することでより有意義な研修となります。

小学校家庭教育学級で地域と連携して講演会を実施

恵那市立東野小学校家庭教育学級講演会

「命は支え合って輝く」 恩田聖敬さん

日時 令和7年12月5日(水) 14:45~15:45

講師 恩田 聖敬 さん(「株式会社まんまる笑店」社長 元FC岐阜代表取締役)

参加者 4年生~6年生児童36名と全校保護者、地域のみなさん約80名



講演「命は支え合って輝く」
講師(株式会社まんまる笑店 社長 恩田 聖敬 氏)



ご講演の様子

「障がいは個性ですか？」恩田さんの生き様に学ぶ

講演会の概要 今日の流れ

- 1 自己紹介とALS
- 2 私の現状
- 3 障がいは個性？
- 4 障がい者とのコミュニケーション
- 5 人生を自分らしく生きるための三原則
- 6 うさぎとかめ
- 7 障がい者の可能性

なお、今皆様がお聞きの声はまだ声の出る頃に私の声を録音して作った「ボイスター」という言うソフトによる、私の声にそっくりな合成音声です。この技術のお陰で、本日も自分の声で皆様に話しかけることが出来ます。

講話の内容を一部紹介します

○障がいは個性？

誰もが特別で尊い存在なのです。障がいが個性なのではありません。人間は皆個性をもっているだけなのです。

どうか忘れないでください。

うわべの障がいだけを見るのではなく、真にその人の個性を観てくれる社会になることを切に望みます。

○障がい者とのコミュニケーション

友人のお母さんがくも膜下出血で倒れ、脳に障がいが残り、自分のことがわからなくなったと相談を受けました。このときに私は「自分の子どものことを忘れる親なんていません。お母さんはちゃんとわかっている。ただ、レスポンスの表現が以前と違うだけです。」と声をかけました。

どうか皆様、周りにいる障がい者の方の手をにぎってあげてください。皆様にはレスポンスが見えないかもしれませんが、患者は間違いなく喜んでみえます。

そこからすべてのコミュニケーションが始まります。

東野小学校家庭教育委員会は、毎年講演会を開催し、子育て親育ちの活動を推進してみえます。今年は、昨年度からの引継の段階で、「障がい者理解」をねらいとする学びの機会を考えてみえました。その際、恩田さんが候補としてあがったそうです。

恩田さんは、2年前、恵那市 PTA 連合会研修大会でご講演いただき(令和5年度「家庭教育なう」No.10にて紹介)、お話に感銘を受けた方がたくさんみえました。なんとかお招きしたいと考えていた、そのときに共催の支援をいただいたのが、東野振興事務所・恵那市社会福祉協議会東野支部・東野青少年育成会議の皆さんだったそうです。その後、家庭教育委員会が今回の案を本部役員会に提案し、承認され、本日の講演会に恩田さんをお招きすることとなりました。

この講演に共催いただきました東野地域の方々も聴いていただこうと振興事務所と協力しての広報活動も行われたそうです。まさに、地域が支える家庭教育支援となりました。

恩田さんのお話は、プロジェクターに恩田さん自身が紡いだ言葉が映し出される形で進みます。声は左記のように合成音声です。手足が動かさせられない恩田さんが、パソコンを使い口に加えた特殊なチューブで文字を一字一字選びながら、この文章を完成させてみえます。400字打つのに2時間も3時間もかかりますが、この作業を続けて講演に臨んでみえるそうです。講演では、この打ち込まれた文字を合成音声を読み上げます。目と耳で恩田さんのお話が味わえるのです。



お礼の言葉 代表の児童・保護者

講演会終了後、6年生の男の子に感想を聞きました。

「恩田さんは病気になる前も、病気になった後でも変わらずに『あきらめること』なくがんばっているところが心に残りました。家でもお母さんと感想を交流したいと思います。」と答えてくれました。

その様子を少し離れたところで微笑んで見守っているその子のお母さんがいらっやいました。子どもと一緒にお話を聴くことが、親子の絆づくりの一助となることを実感した瞬間でもありました。🎧

東野小学校の6年生は、「総合的な学習の時間」に「福祉」をテーマに学習します。この講演会で福祉学習がより深まる機会となりました。

土岐市立泉小学校附属幼稚園 家庭教育学級 在宅の取組

親子で笑顔になれるほっこりタイム「おはなのぼっけ」

(リーダー研のときは『ほっこりんごちゃん』でした)

日時 令和7年11月～今年度いっぱい(予定)

参加者 園児とその保護者

田中園長先生の園の経営方針
やる気・元気・大好き
3つの木を育てよう →お花へ



「やったー!今日はおんぶしてもらえる!」



「今日は手をつないで帰りませー!」

「おはなのぼっけ」のやり方紹介

忙しい毎日の中で、ちょっとした“ほっこり感”や“幸せ感”に気づいていますか?

特別なことはなくても、『ほっこり幸せ親子時間』は、毎日の日常にあるかもしれませんね。

*おはなのぼっけから、幸せタイムのプレゼントです。

ぜひ、親子で楽しんでください。

【遊び方】

- 1 降園時、「おはなのぼっけ」から1枚カードを引く
- 2 カードの内容を親子で確認し、「おはなのぼっけ」に返す
- 3 カードの内容を親子で楽しむ♪
- 4 次の日、またチャレンジ

泉幼稚園では、この11月から園とPTAが協力して「おはなのぼっけ」の取組が始まりました。東濃西部の家庭教育学級リーダー研修会に参加された方は、「ほっこりんごちゃん」の取組といえば、聞き覚えがあるかと思います。今年から、園の経営方針「やる気、元気、大好き」に合わせて「お花のぼっけ」と名前をかえて取り組んでいます。リーダー研修会でも多くの方が「いいねー。」の声が上がった取組を紹介します。

子どもたちは迎えに来たおうちの方と一緒に帰るとき、「おはなのぼっけ」からカードを引きます。そのカードのミッションを親子で実施する取組です。子ども達は、笑顔でぼっけからカードを引いていました。内容をお家の方で確認するときも笑顔。この取組を楽しみにしている様子が伝わってきました。この日は、PTA会長の小幡さんも一緒に立ち会っていただけました。小幡さんはリーダー研修会でこの取組を紹介してくださった方です。取組の内容がとても素敵だったので、さっそく他の園でも「やってみました。」との声を聞きました。この日も親も子どもも笑顔の降園風景でした。

取材してみて、文字通り降園のお迎えに「はな」を添えていると感じました。カードを見合う親子のふれあいの様子がとても微笑ましかったです。



お友だちのカードに興味津々



今日は何かな?みんなが覗き込みます



見守るおうちの方も思わず「ほっこり」

加藤副園長先生に伺いました:子どもたちに人気のミッションは?

意外と年長の子たちが、スキンシップを求める傾向があります。なので、「かえるときにちょっとだけおんぶ」「夜ねるときギュッとしよう」のような取組が人気のようです。取組を続けてきたら、時々、自分の好きなカードが出るまで、何回も引き続ける子どももありました。この間は、一緒にお迎えにきていたら小学生の子どもカードをひいていました。微笑ましかったです。

保護者の方に伺いました:

この間、カードで「夜寝るときにお話ししよう(生まれたときのことを)」が出ました。ベットの途中で子どもが生まれてきたときのことを話していると、「ぼくは、階段をあがって出てきた。」と子どもの方からも話してくれ、ビックリしました。生まれてきたときのことを覚えているんでしょうか。

親子のかかわりを少し意識してもらうだけで、子育ての楽しさ・幸せ感が味わえることに気づかせてもらえる取組でした。

